

2025年3月期 第1四半期 決算説明会



2024年8月5日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

2025年3月期 第1四半期決算状況

2025年3月期 第1四半期決算におけるポイント	4
1. 売上高・利益	5
2. セグメント別業績	8
- 自動車電池（国内）	9
- 自動車電池（海外）	10
- 産業電池電源	11
- 車載用リチウムイオン電池	12
- 特殊電池およびその他	13
3. 貸借対照表	14

2025年3月期 事業環境認識と業績予想

1. 第2四半期以降の事業環境認識	16
2. 売上高・利益予想	17

2025年3月期 第1四半期決算状況

2025年3月期 第1四半期決算におけるポイント



2025年3月期 第1四半期業績 (4-6月)

	2023 年度 第1四半期(4-6月)	2024 年度 第1四半期 (4-6月)	増減	前年比
売上高	1,205 億円	1,276 億円	+71 億円	+5.8 %
営業利益	48 億円	62 億円	+14 億円	+27.9 %
のれん等償却前営業利益	49 億円	64 億円	+15 億円	+28.6 %
経常利益	49 億円	67 億円	+18 億円	+35.5 %
親会社株主に帰属する四半期純利益	16 億円	48 億円	+32 億円	+190.1 %
のれん等償却前 親会社株主に帰属する四半期純利益	17 億円	49 億円	+32 億円	+183.2 %
[参考] のれん等償却前営業利益 (繰インフレ会計適用前)	-	68 億円	-	-
EPS (1株当たり四半期純利益)	20.51 円	47.71 円	+27.2 円	+132.6 %

業績の動向

- ▶ 売上高および営業利益の増加要因：自動車電池の販売数量の増加
各セグメントにおける販売価格是正の効果
- ▶ 経常利益の増加要因：持分法による投資損益の増加
- ▶ 四半期純利益の増加要因：法人税等および非支配株主に帰属する四半期純利益の減少

4

© 2024 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

2024年度 第1四半期決算のポイントです。

売上高は1,276億円となり、前年対比で71億円の増収でした。
営業利益は62億円で14億円の増益、経常利益は67億円で18億円の増益、
四半期純利益は48億円で32億円の増益となり、大幅に増収増益となりました。

業績の動向は次の通りです。

- ・売上高および営業利益は、自動車電池の販売数量の増加、各セグメントにおける販売価格の是正の効果により増加しました。
- ・経常利益は営業利益の増加に加えて、持分法投資損益の増加がありました。
- ・四半期純利益は法人税および非支配株主に帰属する四半期純利益の減少により増加しました。

1. 売上高・利益



	2023 年度 第1四半期 (4-6月)	2024 年度 第1四半期 (4-6月)	増減	(前期比)	(億円)		
					[参考] 2024 年度予想		
					上期 (4-9月)	通期 (4-3月)	
売上高	1,205	過去最高 1,276	+71	(+5.8%)	2,630	5,900	
売上総利益	258	284	+26		-	-	
営業利益 (利益率)	48 4.0%	過去最高 62 4.8%	+14	+0.8p (+27.9%)	130 4.9%	440 7.5%	
のれん等償却前営業利益 (利益率)	49 4.1%	過去最高 64 5.0%	+15	+0.9p	-	445 7.5%	
営業外収益	17	22	+5		-	-	
営業外費用	16	17	+1		-	-	
うち持分法による投資損益 (△は損失)	2	8	+6		-	-	
経常利益	49 4.1%	過去最高 67 5.2%	+18	+1.1p (+35.5%)	125 4.8%	440 7.5%	
特別利益	4	0	△4		-	-	
特別損失	7	1	△6		-	-	
税前四半期純利益	47	67	+20		-	-	
法人税等	15	8	△7		-	-	
非支配株主 四半期純利益	15	11	△4		-	-	
親会社株主 四半期純利益 (利益率)	16 1.4%	過去最高 48 3.8%	+32	+2.4p (+190.1%)	60 2.3%	260 4.4%	
のれん等償却前親会社株主 四半期純利益 (利益率)	17 1.4%	過去最高 49 3.9%	+32	+2.5p	-	265 4.5%	
[参考] のれん等償却前営業利益 (超インフレ会計適用前) (利益率)	-	68 5.3%	-		-	471 8.0%	
EPS (1株当たり四半期純利益)	20.51 円	47.71 円	+27.2 円		59.82 円	259.21 円	
CF計算書 関係	減価償却費	53	58	+5		-	-
	のれん償却費	1	1	+0		-	-
相場情報/ 前提条件	国内鉛建値 (万円/t)	35.60 万円/t	39.98 万円/t	+4.38 万円/t		37.2 万円/t	37.2 万円/t
	LME (US\$/t)	2,118 US\$/t	2,166 US\$/t	+48 US\$/t		2,200 US\$/t	2,200 US\$/t
	為替 (円/US\$)	139.63 円/US\$	158.24 円/US\$	+18.61 円/US\$		150.00 円/US\$	145.00 円/US\$

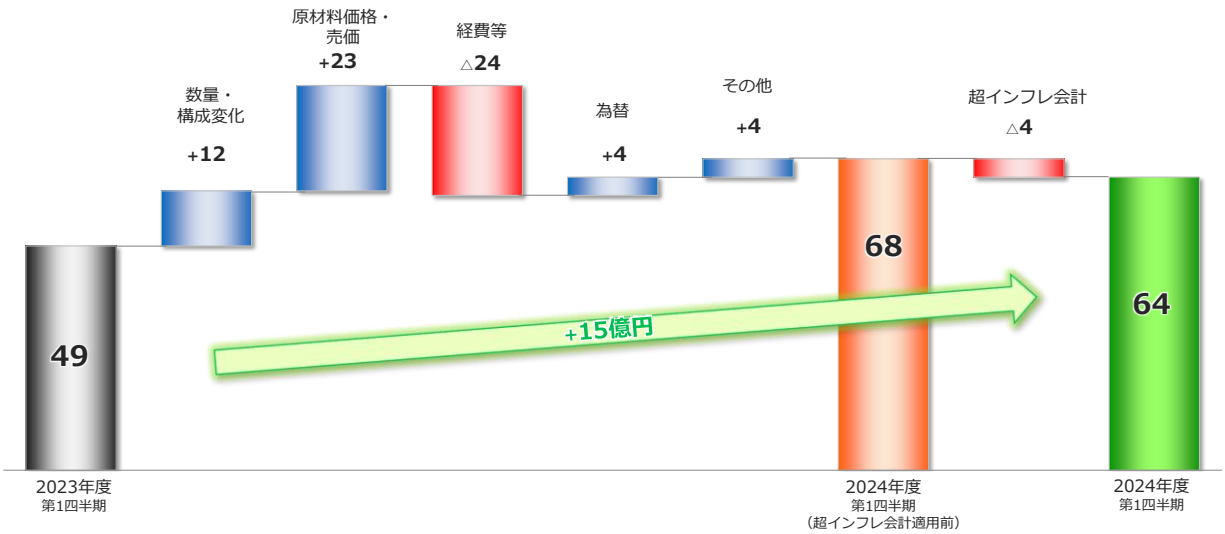
(注) 2024年度の通期予想における「超インフレ会計適用額」は23年度と同水準を営業利益に計上。

売上高、各段階利益ともに過去最高を更新しています。

1. 売上高・利益

営業利益増減要因（前年比較）

（億円）



（注）営業利益はのれん等償却前営業利益です。

のれん等償却前営業利益の前年対比での増減要因です。

前年対比で15億円の増益となり、昨今の原材料価格の高騰やインフレによる経費増加の影響を、売価是正や物量の増加でカバーできています。それにより過去最高益を更新しています。

1. 売上高・利益

営業外損益・特別損益・法人税等などの増減要因（前年比較） （億円）

	2023年度 第1四半期 (4-6月)	2024年度 第1四半期 (4-6月)	増減	
営業利益	48	62	+14	主要要因 () 内は2024年度1Qの金額 ▶ 持分法損益の改善 +6億円 （持分法による投資利益 8億円） ▶ 超インフレ会計適用による増加 +3億円 （正味貨幣持高による利得 3億円） ▶ 為替差損の増加 △9億円 （為替差損 3億円） ▶ 債券売却損の減少 +3億円 （債券売却損 1億円）
営業外収益	17	22	+5	
営業外費用	16	17	+1	
経常利益	49	67	+18	
特別利益	4	0	△4	
特別損失	7	1	△6	
税金等調整前四半期純利益	47	67	+20	
法人税等	15	8	△7	▶ 海外子会社における税金費用の減少
非支配株主に帰属する四半期純利益	15	11	△4	
親会社株主に帰属する四半期純利益	16	48	+32	

営業外損益、特別損益の内訳です。

営業外損益として、持分法損益の改善で約6億円ございます。
 ホンダとの研究開発合弁会社であるHonda・GS Yuasa EV Battery R&D (HGYB) で
 一定の損失が出ていますが、海外持分法適用会社を中心に業績の大きな改善があり、
 増益となっています。
 またトルコにおける超インフレ会計適用による増加もあります。
 トルコの要因が大きいです。為替差損益の悪化で9億円ほどのマイナス影響があり
 ます。

法人税等については、トルコ拠点の税金費用減少がありました。
 超インフレに伴う税効果影響を前期まで繰延税金負債として計上していましたが、今
 回税務と会計が分離したため、取り崩しがあり約14億円の減少効果がありました。

2. セグメント別業績

		2023 年度 第1四半期 (4-6月)		2024 年度 第1四半期 (4-6月)		増減		【参考】2024 年度 第1四半期 (4-6月) (超インフレ会計適用前)		【参考】2024 年度予想 通期 (4-3月)	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)
自動車電池	国内	196	10 (5.2)	208	16 (7.8)	+12	+6 (+2.6)	208	16 (7.8)	1,000	80 (8.0)
	海外	584	28 (4.7)	652	48 (7.4)	+68	+20 (+2.7)	652	52 (8.0)	2,590	165 (6.4)
産業電池電源		179	2 (0.8)	195	9 (4.8)	+16	+7 (+4.0)	195	9 (4.8)	1,200	130 (10.8)
車載用 リチウムイオン電池		195	4 (2.2)	161	△20 (△12.6)	△34	△24 (△14.8)	161	△20 (△12.6)	900	40 (4.4)
特殊電池およびその他		52	6 (10.9)	60	10 (16.9)	+8	+4 (+6.0)	60	10 (16.9)	210	30 (14.3)
合計		1,205	49 (4.1)	1,276	64 (5.0)	+71	+15 (+0.9)	1,276	68 (5.3)	5,900	445 (7.5)

24年度 第1四半期実績

- ▶ 自動車電池・産業電池電源事業を中心に売価転嫁の効果により売上高は増加
- ▶ 自動車生産は新車メーカーの操業停止などにより若干減少
- ▶ 車載用リチウムイオン電池はリチウム市況下落による売価低下、PHEV向け数量減により減少
- ▶ 鉛価格動向はLMEは安定的に推移するも、円安影響を受けて国内鉛建値は高止まり
- ▶ 為替は円安基調が継続も為替介入・利上げ観測などにより不透明な状況

<相場情報/ 前提条件>

	2023 年度 (4-6月)	2024 年度 (4-6月)	増減	【参考】 2024 年度予想 通期 (4-3月)
国内鉛建値 (万円/t)	35.60	39.98	+4.38	37.2
LME (US\$/t)	2,118	2,166	+48	2,200
為替 (円/US\$)	139.63	158.24	+18.61	145.00

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

各セグメントごとの売上高・営業利益です。

自動車電池（国内）は売上高で+12億円、営業利益で+6億円の増収増益です。

自動車電池（海外）は売上高で+68億円、営業利益で+20億円と大幅な増収増益です。

産業電池電源は売上高で+16億円、営業利益で+7億円の増収増益です。

特殊電池およびその他は売上高で+8億円、営業利益+4億円の増収増益です。

車載用リチウムイオン電池を除く既存事業では、しっかり売上高・営業利益を伸ばすことができています。

一方で今回は車載用リチウムイオン電池は残念ながら20億円の赤字となりました。

前年対比で24億円の悪化で、売上高も減少しています。

前年度末に続いてリチウム市況下落に伴う売価低下に加え、1Qで当初想定していた通り、PHEV向けの物量が大きく減少していることが、今回の減収減益の要因です。

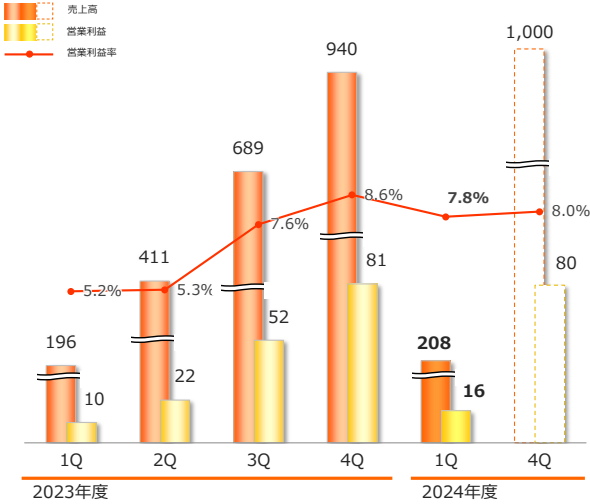
2. セグメント別業績（自動車電池（国内））

自動車電池（国内）

増収増益

売上高・営業利益・利益率（累計）（億円）

2024年度 第1四半期商況（4-6月）



> [新車向け]

新車メーカーの操業停止などにより販売数量は減少するも、売価見直しにより売上高は増加

> [補修向け]

販売数量が若干増加したことにより売上高が増加

増減益要因（前年比：4-6月）

数量・構成変化	+2	
原材料価格・売価	+7	新車向け売価見直しにより増加
経費等	△3	

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

自動車電池（国内）は売上高208億円で12億円の増収、営業利益は16億円で6億円の増益となりました。

新車向けは販売数量が減少したものの、売価是正の効果により売上高は増加しています。

補修向けは販売数量が一定増加したことおよび売価見直しなどもあり増収となっています。

営業利益は補修向けの物量増、そして新車・補修向けの売価見直しにより増益となっています。

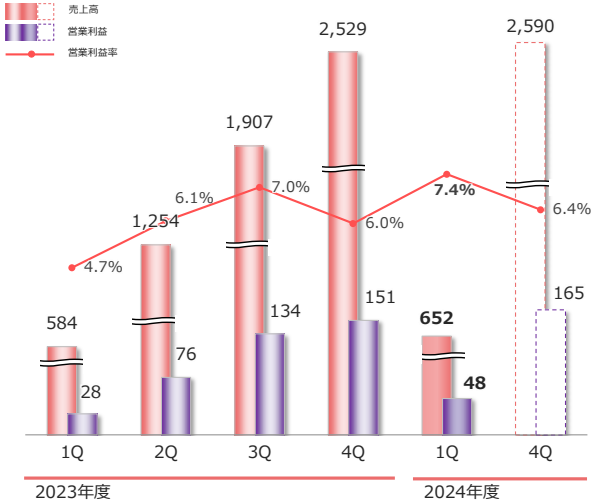
2. セグメント別業績 (自動車電池 (海外))

自動車電池 (海外)

増収増益

売上高・営業利益・利益率 (累計) (億円)

2024年度 第1四半期商況 (4-6月)



▶ [東南アジア]

戦略拠点であるタイ・インドネシア・ベトナムのすべてで、自動車用、オートバイ用ともに販売数量が増加

▶ [欧州]

需要が旺盛な欧州市場で、トルコリラ安を背景とした競争力のある自動車用電池の販売数量が堅調に推移するとともに、売価見直し・為替影響により売上高は増加

▶ [豪州]

「Made in Australia」による販売数量の増加と売価見直し・為替影響により売上高は増加

増減益要因 (前年比: 4-6月)

数量・構成変化	+25	戦略拠点を中心に数量増加
原材料価格・売価	+15	コスト上昇の売価反映により増加
経費等	△19	インフレ影響による経費増加
為替	+4	円安による換算影響
超インフレ会計	△4	

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

自動車電池 (海外) は売上高652億円で68億円の増収、営業利益は48億円で20億円の増益となり、大きく増収増益となりました。

各拠点で販売物量が大きく増加しています。

東南アジアではタイ・インドネシア・ベトナムのすべての拠点で自動車用、オートバイ用共に販売数量が増加しています。

欧州でも市場が堅調であり、重要な生産拠点であるトルコのリラ安を背景とした、競争力のある自動車電池の販売数量が非常に堅調に推移しています。またコストアップに伴う売価見直し、為替影響により売上高は増加しています。

豪州についても引き続き「Made in Australia」が非常に好まれているという環境で物量の増加、売価是正ができています。

この増収に伴って営業利益も増益となり、大きく改善しています。

2. セグメント別業績 (産業電池電源)

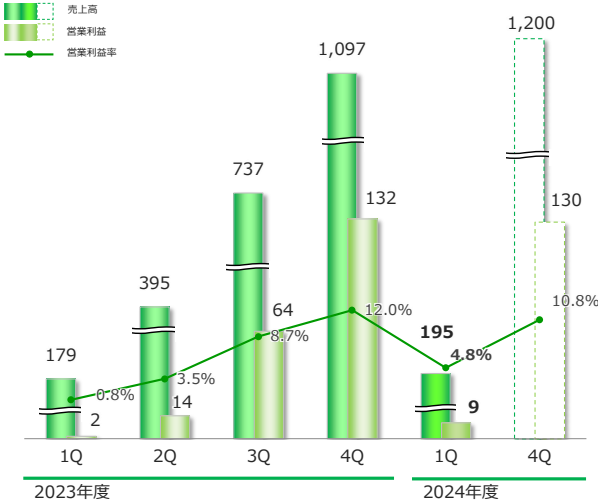
産業電池電源

増収増益

売上高・営業利益・利益率 (累計)

(億円)

2024年度 第1四半期商況 (4-6月)



- > **[常用 (国内)]** 前期末の期ズレ案件の納入により売上高が増加
- > **[非常用 (国内)]** 官公庁・原子力向けなどの好調に加えて、データセンター需要の拡大による販売増により、売上高は堅調に推移
- > **[フォークリフト用 (グローバル)]** 売価見直しなどにより売上高は増加

増減益要因 (前年比: 4-6月)

数量・構成変化	△1	
原材料価格・売価	+5	売価見直しにより増加
経費等	+3	

産業電池電源は売上高195億円で16億円の増収、営業利益9億円で7億円の増益となりました。

常用分野については、案件の納期が前期から今期へズレたことで売上高が増加しています。

非常用は官公庁・原子力向けなどの案件が好調であることに加えて、データセンター需要の拡大が旺盛で販売物量が増加しています。

フォークリフト用についても売価是正により売上高は増加しています。

増収を背景に、特に前年度からの売価見直しの効果がフルで寄与しており、増益となっています。

2. セグメント別業績 (車載用リチウムイオン電池)

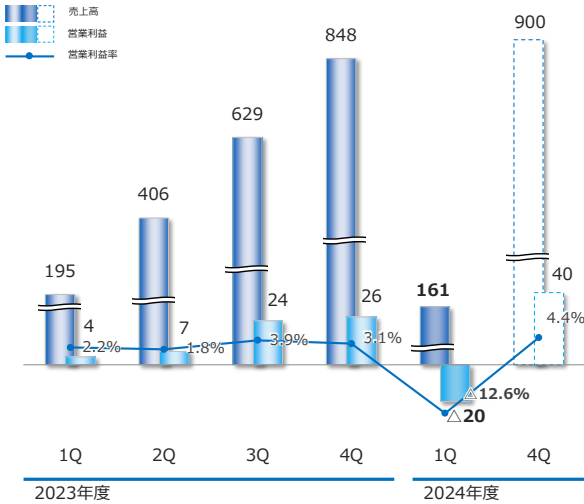
車載用リチウムイオン電池

減収減益

売上高・営業利益・利益率 (累計)

(億円)

2024年度 第1四半期商況 (4-6月)



- **[HEV]** ホンダを中心に販売数量は増加したものの、リチウム市況の下落を受けて売上高が減少
- **[PHEV]** 納入車種の販売数量が減少
- **[12V LiB]** 欧州向け納入車種の販売増加により販売数量が増加

増減益要因 (前年比: 4-6月)

数量・構成変化	△14	PHEV・ESS用の販売数量の減少とそれに伴う操業度の低下影響
原材料価格・売価	△4	リチウム市況下落に伴う売価低下
経費等	△6	在庫の簿価切り下げの影響

車載用リチウムイオン電池は売上高161億円で34億円の減益、営業利益△20億円で24億円の減益となりました。

ハイブリッド車用リチウムイオン電池、プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池いずれも減収となっています。特に大きく売上を減らしているのはプラグインハイブリッド車用です。

ハイブリッド車用は、ホンダを中心に販売数量は増加していますが、リチウム市況の下落を受けて売上高が減少しています。プラグインハイブリッド車用は、三菱自動車向けを中心とした納入車種の販売数量が、現行車種の製品ライフサイクルが終盤を迎えているということで、ある程度想定はしていましたが、物量が大きく減っています。一方で今後期待される始動用12Vリチウムイオン電池は、販売物量の増加、売価是正が進んでおり増収となっています。

利益に関しては、残念ながら大きな赤字となっています。プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池は物量減少に伴う影響があります。本来であれば物量減に対して売価是正を進めていきますが、タイミングとしては下期以降に反映していくものと想定しています。そのため1Qにマイナスとして大きくインパクトがありました。またこのセグメントとしてはESS向けの販売数量が減っており、それによる操業度影響があります。原材料価格・売価にもありますが、リチウム市況下落に伴う売価の低下、ハイブリッド用の過去の仕入れのスキーム影響を受けており、1Qがマイナスのピークと想定しています。2Q以降は原材料価格と売価のスプレッドは改善されていくと見ています。

2. セグメント別業績 (特殊電池およびその他)

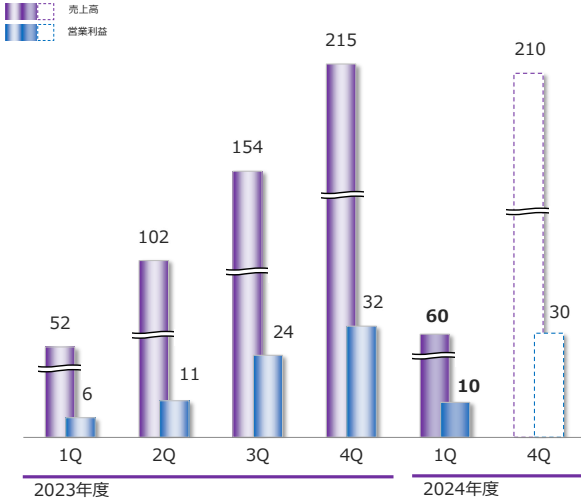
特殊電池およびその他

増収増益

売上高・営業利益 (累計)

(億円)

2024年度 第1四半期商況 (4-6月)



> [潜水艦用リチウムイオン電池]

契約単価見直しにより売上高が増加

> [航空機用リチウムイオン電池]

新設向けは増加したものの、エアライン (補修) 向け販売数量は減少

増減益要因 (前年比: 4-6月)

潜水艦用リチウムイオン電池の契約単価見直しならびに、経費の減少により増益

特殊電池およびその他は売上高60億円で8億円の増収、営業利益10億円で4億円の増益となりました。

潜水艦用リチウムイオン電池は防衛省向けの契約単価の見直しができおり、売上高は増加しています。

航空機用リチウムイオン電池は新設向けは増加しているものの、エアライン (補修) 向けが減少しています。

増減益要因は潜水艦用リチウムイオン電池の売価見直しによる改善、経費の削減により増益となっています。

3. 貸借対照表

				(億円)	
<ul style="list-style-type: none"> 現金及び預金 +35 売上債権 Δ175 棚卸資産 +149 その他 +21 	流動資産	1,925	流動負債	1,925	<ul style="list-style-type: none"> 設備を含めた仕入債務 Δ2 短期借入金 +56 コマーシャルペーパー +45 未払金等 Δ41
	3,198 (+29)	(+40)	固定負債	934 (Δ 9)	<ul style="list-style-type: none"> リース債務 +4 繰延税金負債 Δ17 その他 +3
<ul style="list-style-type: none"> 建物及び構築物 +10 機械装置及び運搬具 +13 土地 +29 建設仮勘定 +12 	有形固定資産	1,953 (+67)	純資産	3,797 (+58)	<ul style="list-style-type: none"> 利益剰余金 Δ17 その他有価証券評価差額金 Δ13 為替換算調整勘定 +65 非支配株主持分 +27
<ul style="list-style-type: none"> 投資有価証券 Δ15 退職給付に係る資産 +3 	無形固定資産	52 (+1)			
	投資その他の資産	1,453 (Δ 8)			
	総資産	6,655 (+89)			

(注) 2024/6末時点
増減は2024/3末対比

ポイント

- ▶ 産業電池電源事業を中心に在庫が増加
- ▶ 川越事業所 (IBGYIS) の土地建屋取得
- ▶ 円安に伴い為替換算調整勘定が増加

	2024/3末	2024/6末
自己資本比率	50.3%	50.0%
借入金総額	762億円	863億円

2024年6月末時点の貸借対照表です。

総資産は6,655億円となり、3月末対比で89億円の資産増となっています。

流動資産は29億円の増加です。

1Qは前年度末の債権回収期ということで売上債権が減少しています。

一方で海外を中心に現預金が一定程度積みあがっていること、夏以降の需要期に向けた作り貯めによる棚卸資産の増加があります。

有形固定資産は67億円の増加ということで、産業電池電源セグメントにおけるサンケン電気の土地建屋の取得があります。

加えてハイブリッド車用リチウムイオン電池の設備投資があったことによる資産増です。

負債サイドは借入金総額としては約100億円増えています。

純資産については、58億円増加しています。

利益剰余金は四半期純利益の増加があったものの、期末配当の支払いなどによる減少で Δ 17億円となりました。

本日株価は大幅に下落していますが、6月末時点でも下落していました。

一方で為替についても6月末時点では円安傾向が続いていました。

自己資本比率については引き続き50%台をキープしています。

2025年3月期 事業環境認識と業績予想

業績予想については5月の当初予想を変更していません。
足元の環境と2Q以降の状況の方向性について説明させていただきます。

1. 第2四半期以降の事業環境認識

自動車電池	国内	<p>新車メーカーの操業の見通しは不透明なものの、補修向けは2Q以降も堅調を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ <新車向け> 操業の見通しは不透明 ➢ <補修向け> 2Q以降も若干上振れの想定
	海外	<p>戦略拠点（アセアン・欧州・豪州）を中心に売価・数量ともに2Q以降も好調を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ <アセアン> インドネシア・ベトナムは2Q以降も好調が継続する想定 ➢ <欧州> トルコ拠点から欧州向け輸出版売が2Q以降も好調の想定 ➢ <豪州> 売価転嫁が進むとともに、数量も好調に推移しており2Q以降も好調継続の想定
産業電池電源		<p>常用は引き合いは多いものの顧客都合により納入時期が前後する可能性があり、2Q以降については現時点では当初予想並みを想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ <常用> 生産能力以上の引き合いが来ているが、補助金などの関係による顧客都合で納入時期が前後する可能性あり ➢ <フォークリフト> 国内・海外ともに2Q以降も堅調を維持する想定
車載用リチウムイオン電池		<p>HEV向けはリチウム市況下落による売価低下の影響が続くものの、数量増・売価見直しなどにより挽回を想定。</p> <p>PHEV向けは納入車種の販売数量減については下期に納入車種拡大により挽回を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ <HEV> リチウム市況下落による原材料・売価のスプレッド悪化の影響が続くものの、数量増・売価見直しなどにより挽回を想定 ➢ <PHEV> 納入車種の販売数量減があったものの下期は納入車種拡大による挽回を想定
特殊電池およびその他		<p>潜水艦向けは売価見直しの影響が続くものの、航空機向け数量減は2Q以降も継続を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ <潜水艦向け> 契約単価見直しによる値上げ影響が2Q以降も継続する想定 ➢ <航空機向け> 新設向けは増加するもエアライン（補修）向けは減少が2Q以降も継続する想定 ➢ <管理部門> 2Q以降に若干の経費の増加を想定

自動車電池（国内）は新車向けについては物量が不透明であるため、操業も不透明と考えています。
一方で補修向けは2Q以降も堅調に推移すると想定しています。

自動車電池（海外）はアセアン・欧州・豪州を中心に1Qに続いて2Q以降も堅調に推移すると想定しています。
アセアンに関してはインドネシア・ベトナムは2Q以降も好調が継続すると想定しています。
欧州についてもトルコ拠点から英国・欧州大陸向けの輸出が好調だと想定しています。
豪州は引き続き堅調に推移すると見ています。

産業電池電源のESSをはじめとした常用分野では、引き合いは引き続き堅調です。一方ESS事業は補助金の期間が2026年度まで伸びているため、お客様都合により納入時期が前後する可能性があると考えていますが、需要は旺盛なため当初並みを予想しています。
非常用分野に関しても堅調なので、想定通りと考えています。

車載用リチウムイオン電池は、ハイブリッド車用でリチウム市況下落に伴う売価低下の影響が少し続くと思いますが、数量増・売価の見直しで挽回を図っていきます。
プラグインハイブリッド用は、当初から計画していた下期からの新たな車種への納入開始により挽回を図り、物量減に対しては売価是正で対応していきます。
ハイブリッド車用はリチウム市況の下落に伴う原材料・売価のスプレッド悪化影響は若干続くものの改善は進んでおり、2Q以降はスプレッド差は大きく減少していくと想定しています。
そのうえで物量増加・売価見直しを進め、中計アップデート説明会でもご説明した仕入スキームの見直しを進めることで、今後挽回を図っていきます。

特殊電池およびその他については、潜水艦向けは売価是正が継続しますが、航空機向けは若干減少する見込みです。管理部門は現時点では2Q以降若干の経費増加を見込んでおり、当初から大きく変更はございません。

2. 売上高・利益予想



	2023年度実績		2024年度予想		(億円) 増減 (A)-(B)		(前期比)
	上期(4-9月)	通期(4-3月)(B)	上期(4-9月)	通期(4-3月)(A)			
売上高	2,568	5,629	2,630	5,900	+271		(+4.8%)
営業利益(利益率)	127 4.9%	416 7.4%	130 4.9%	440 7.5%	+24 +0.1P		(+5.8%)
のれん等償却前営業利益(利益率)	129 5.0%	422 7.5%	-	445 7.5%	+23 +0.0P		
経常利益	120 4.7%	440 7.8%	125 4.8%	440 7.5%	+0 Δ0.3P		(+0.0%)
親会社株主 当期純利益(利益率)	60 2.3%	321 5.7%	60 2.3%	260 4.4%	Δ61 Δ1.3P		(Δ18.9%)
のれん等償却前親会社株主 当期純利益(利益率)	62 2.4%	326 5.8%	-	265 4.5%	Δ61 Δ1.3P		
[参考] のれん等償却前営業利益(超インフレ会計適用前)	-	449 8.0%	-	471 8.0%	+22 +0.0P		
EPS(1株当たり当期純利益)	74.06円	369.74円	59.82円	259.21円	Δ110.53円		
配当金(円/株)(24年度は予定)	15円(中間)	70円(通期)	20円(中間)	70円(通期)	±0円		
相場情報/前提条件	国内鉛建値(万円/t)	36.84万円/t	37.34万円/t	37.2万円/t	37.2万円/t	Δ0.14万円/t	
	LME(US\$/t)	2,144 US\$/t	2,121 US\$/t	2,200 US\$/t	2,200 US\$/t	+79 US\$/t	
	為替(円/US\$)	142.61円/US\$	145.31円/US\$	150.00円/US\$	145.00円/US\$	Δ0.31円/US\$	

(注) 2024年度の通期予想における「超インフレ会計適用額」は23年度と同水準を営業利益に計上。

業績の見通し

- 5月発表時点から市場環境に変化はありますが、決算発表時点では業績見通しに大きな修正はございません。
- 売上高・各利益(全社・セグメント)とも業績見通しの修正は行っておりません。

5月に発表した期初予想です。

通期で売上高5,900億円、営業利益440億円の予想です。

車載用リチウムイオン電池事業は1Q赤字ではありますが、今後挽回を図りたいと考えており、期初計画の達成をミニマムとして頑張っております。

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。
本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。

**連絡先**

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
コーポレート室（広報） 青木 裕・西島 務・田中 祥太・神田 文
Tel : 075-312-1214
<https://www.gs-yuasa.com/jp>

参考資料

参考資料. 売上高・利益 (3か月情報)



	(億円)						
	2023年度 第1四半期 (4-6月)	2024年度 第1四半期 (4-6月) (A)	増減	(前期比)	【参考】前四半期情報		
					2023年度 第4四半期 (1-3月) (B)	増減 (A)-(B)	
売上高	1,205	1,276	+71	(+5.8%)	1,513	△237	
売上総利益	258	284	+26		331	△47	
営業利益 (利益率)	48 4.0%	62 4.8%	+14	+0.8P (+27.9%)	122 8.1%	△60 △3.3P	
のれん等償却前営業利益 (利益率)	49 4.1%	64 5.0%	+15	+0.9P	124 8.2%	△60 △3.2P	
営業外収益	17	22	+5		41	△19	
営業外費用	16	17	+1		13	+4	
うち持分法による投資損益 (△は損失)	2	8	+6		2	+6	
経常利益	49 4.1%	67 5.2%	+18	+1.1P (+35.5%)	150 9.9%	△83 △4.7P	
特別利益	4	0	△4		7	△7	
特別損失	7	1	△6		17	△16	
税前四半期純利益	47	67	+20		140	△73	
法人税等	15	8	△7		△14	+22	
非支配株主 四半期純利益	15	11	△4		11	+0	
親会社株主 四半期純利益 (利益率)	16 1.4%	48 3.8%	+32	+2.4P (+190.1%)	143 9.5%	△95 △5.7P	
のれん等償却前親会社株主 四半期純利益 (利益率)	17 1.4%	49 3.9%	+32	+2.5P	146 9.6%	△97 △5.7P	
【参考】のれん等償却前営業利益 (超インフレ会計適用前) (利益率)	-	68 5.3%	-		-	-	
相場情報	国内鉛建値 (万円/t)	35.60 万円/t	39.98 万円/t	+4.38 万円/t		37.51 万円/t	+2.47 万円/t
	LME (US\$/t)	2,118 US\$/t	2,166 US\$/t	+48 US\$/t		2,076 US\$/t	+90 US\$/t
	為替 (円/US\$)	139.63 円/US\$	158.24 円/US\$	+18.61 円/US\$		149.88 円/US\$	+8.36 円/US\$

参考資料. セグメント別業績 (3か月情報)



		2023 年度 第1四半期 (4-6月)		2024 年度 第1四半期 (4-6月) (A)		増減		(億円)					
		売上高		営業利益 (利益率:%)		売上高		営業利益 (利益率:P)		[参考] 前四半期情報		増減 ((A)-(B))	
		2023年度 第4四半期 (1-3月) (B)	増減 ((A)-(B))		2023年度 第4四半期 (1-3月) (B)	増減 ((A)-(B))		増減 ((A)-(B))		増減 ((A)-(B))		増減 ((A)-(B))	
自動車 電池	国内	196	10 (5.2)	208	16 (7.8)	+12	+6 (+2.6)	252	29 (11.4)	△44	△13 (△3.6)		
	海外	584	28 (4.7)	652	48 (7.4)	+68	+20 (+2.7)	622	18 (2.8)	+30	+30 (+4.6)		
産業電池電源		179	2 (0.8)	195	9 (4.8)	+16	+7 (+4.0)	359	67 (18.8)	△164	△58 (△14.0)		
車載用 リチウムイオン電池		195	4 (2.2)	161	△20 (△12.6)	△34	△24 (△14.8)	218	2 (1.0)	△57	△22 (△13.6)		
特殊電池およびその他		52	6 (10.9)	60	10 (16.9)	+8	+4 (+6.0)	62	8 (13.7)	△2	+2 (+3.2)		
合計		1,205	49 (4.1)	1,276	64 (5.0)	+71	+15 (+0.9)	1,513	124 (8.2)	△237	△60 (△3.2)		

24年度 第1四半期末績

- 自動車電池・産業電池電源事業を中心に売価転嫁の効果により売上高は増加
- 自動車生産は新車メーカーの操業停止などにより若干減少
- 車載用リチウムイオン電池はリチウム市況下落による売価低下、PHEV向け数量減により減少
- 鉛価格動向はLMEは安定的に推移するも、円安影響を受けて国内鉛建値は高止まり
- 為替は円安基調が継続も為替介入・利上げ観測などにより不透明な状況

<相場情報>	2023 年度 第1四半期 (4-6月)	2024 年度 第1四半期 (4-6月) (A)	増減	[参考] 前四半期情報	
	2023年度 第4四半期 (1-3月) (B)	増減 ((A)-(B))		2023年度 第4四半期 (1-3月) (B)	増減 ((A)-(B))
国内鉛建値 (万円/t)	35.60	39.98	+4.38	37.51	+2.47
LME (US\$/t)	2,118	2,166	+48	2,076	+90
為替 (円/US\$)	139.63	158.24	+18.61	149.88	+8.36

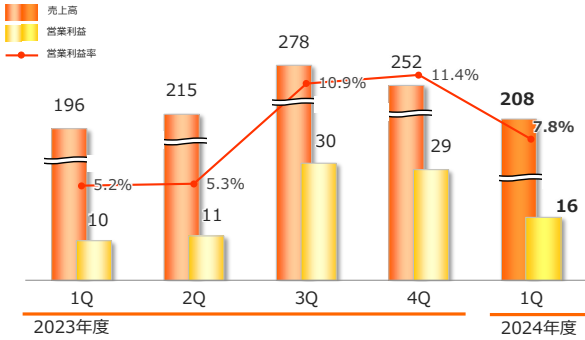
(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

参考資料. セグメント別業績 (3か月情報)

自動車電池 (国内)

増収増益

売上高・営業利益・利益率 (3か月) (億円)



増減益要因 (前年比: 4-6月)

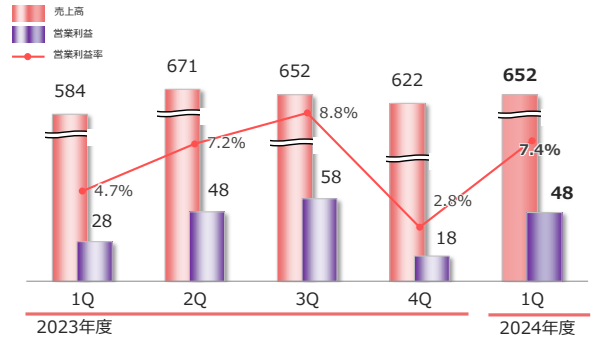
数量・構成変化	+2	
原材料価格・売価	+7	新車向け売価見直しにより増加
経費等	△3	

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

自動車電池 (海外)

増収増益

売上高・営業利益・利益率 (3か月) (億円)



増減益要因 (前年比: 4-6月)

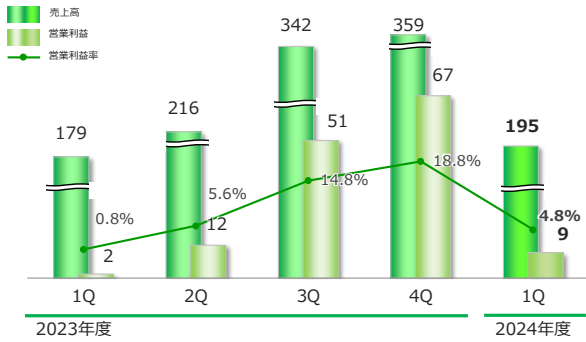
数量・構成変化	+25	戦略拠点を中心に数量増加
原材料価格・売価	+15	コスト上昇の売価反映により増加
経費等	△19	インフレ影響による経費増加
為替	+4	円安による換算影響
超インフレ会計	△4	

参考資料. セグメント別業績 (3か月情報)

産業電池電源

増収増益

売上高・営業利益・利益率 (3か月) (億円)



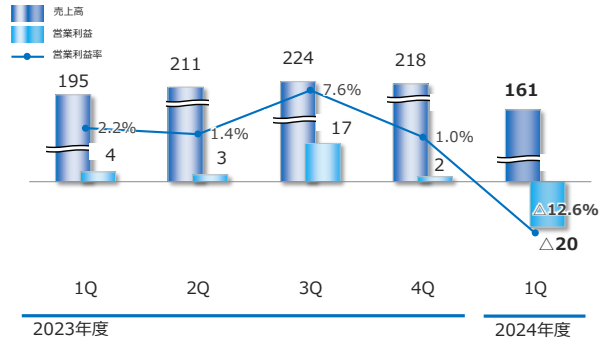
増減益要因 (前年比: 4-6月)

数量・構成変化	△1	
原材料価格・売価	+5	売価見直しにより増加
経費等	+3	

車載用リチウムイオン電池

減収減益

売上高・営業利益・利益率 (3か月)



増減益要因 (前年比: 4-6月)

数量・構成変化	△14	PHEV・ESS用の販売数量の減少とそれに伴う操業度の低下影響
原材料価格・売価	△4	リチウム市況下落に伴う売価低下
経費等	△6	在庫の簿価切り下げの影響

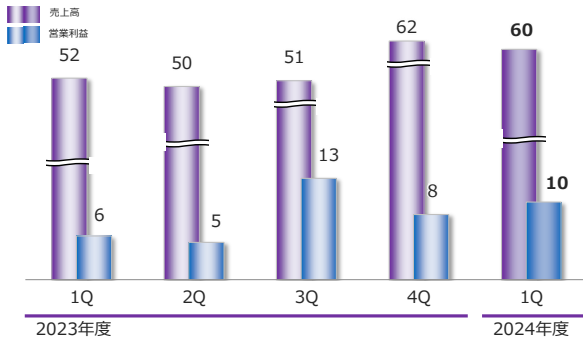
参考資料. セグメント別業績 (3か月情報)

特殊電池およびその他

増収増益

売上高・営業利益 (3か月)

(億円)



増減益要因 (前年比: 4-6月)

潜水艦用リチウムイオン電池の契約単価見直しならびに、経費の減少により増益

IAS 第29号「超インフレ経済下における財務報告」の概要

➤超インフレ経済下とは、3年累計インフレ率が、100%に近づいているか超えている状態

1.日本円換算時に、資産・負債項目 (BS項目) および収益・費用項目 (PL項目) を **決算日レートで換算** しなければならない

	従来	IAS 第29号
資産・負債項目 (BS項目)	決算日レート	決算日レート
収益・費用項目 (PL項目)	期中平均レート	

2.物価指数 (CPI) の変動を財務諸表に反映する必要がある

■貸借対照表への影響

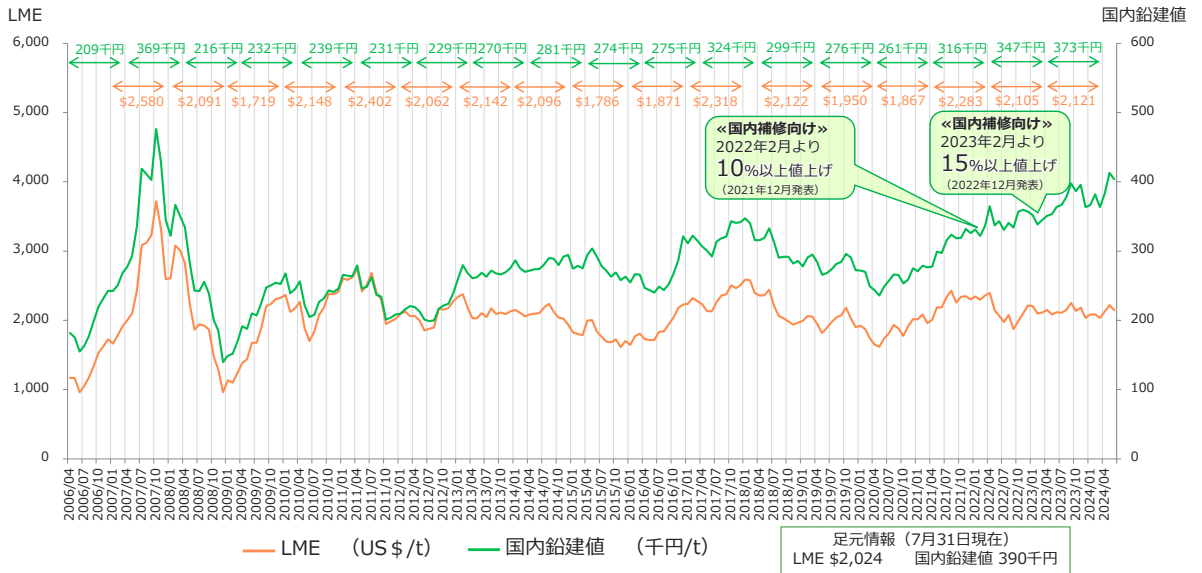
- ・棚卸資産、有形・無形固定資産などの**非貨幣性項目は取得日・取引日から、資本金は出資時点から、**それぞれ期末時点までの物価変動に応じて修正再表示
- ・利益剰余金は期末時点までの累積的な影響を反映

■損益計算書への影響

- ・すべての科目を、取引時点から期末時点までの物価変動に応じて修正再表示

➡ インフレ影響による差分を営業外損益「**正味貨幣持高による損益**」に計上

原材料価格の推移



セグメント別業績の四半期推移

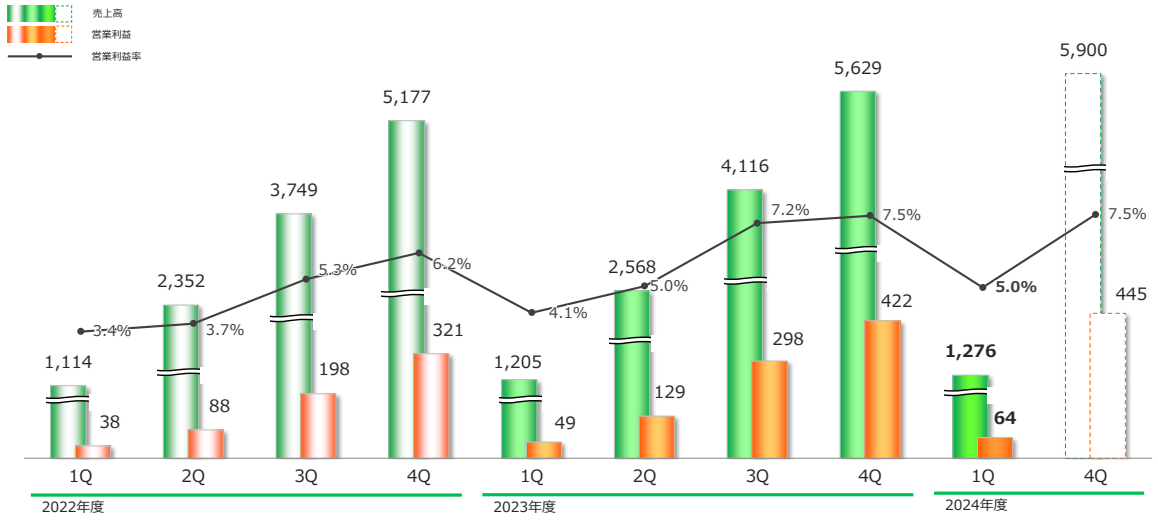
(億円)

		2023 年度										2024 年度											
		第1四半期 (4-6月)		第2四半期 (7-9月)		第3四半期 (10-12月)		第4四半期 (1-3月)		通期 (4-3月)		第1四半期 (4-6月)		第2四半期 (7-9月)		第3四半期 (10-12月)		第4四半期 (1-3月)		通期見通し (4-3月)			
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	EBITDA (EBITDA マージン:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	EBITDA (EBITDA マージン:%)
自動車電池	国内	196	10 (5.2)	215	11 (5.3)	278	30 (10.9)	252	29 (11.4)	940	81 (8.6)	109 (11.6)	208	16 (7.8)	-	-	-	-	-	-	1,000	80 (8.0)	-
	海外	584	28 (4.7)	671	48 (7.2)	652	58 (8.8)	622	18 (2.8)	2,529	151 (6.0)	226 (8.9)	652	48 (7.4)	-	-	-	-	-	-	2,590	165 (6.4)	-
産業電池電源		179	2 (0.8)	216	12 (5.6)	342	51 (14.8)	359	67 (18.8)	1,097	132 (12.0)	151 (13.8)	195	9 (4.8)	-	-	-	-	-	-	1,200	130 (10.8)	-
車載用リチウムイオン電池		195	4 (2.2)	211	3 (1.4)	224	17 (7.6)	218	2 (1.0)	848	26 (3.1)	75 (8.9)	161	△20 (△12.6)	-	-	-	-	-	-	900	40 (4.4)	-
特殊電池およびその他		52	6 (10.9)	50	5 (9.7)	51	13 (25.5)	62	8 (13.7)	215	32 (14.9)	89 (41.4)	60	10 (16.9)	-	-	-	-	-	-	210	30 (14.3)	-
合計		1,205	49 (4.1)	1,363	80 (5.9)	1,548	169 (10.9)	1,513	124 (8.2)	5,629	422 (7.5)	650 (11.6)	1,276	64 (5.0)	-	-	-	-	-	-	5,900	445 (7.5)	675 (11.4)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。EBITDAはのれん等償却前営業利益+減価償却費です。

売上高・営業利益・利益率推移 (累計)

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。